

(八) 冬休み中の断食行

冬休み中の断食行

仏の加持力で成仏させて頂きましたが、このままではとても人を助ける力は出ない。顯徳の成仏の境地を何としても獲得したい。お大師さまの十分の一でも靈験を出す力を授けしてほしい。そうして人を救済して、お大師さまの御教えを広めさせて頂きたい。そのような菩提心に燃えた私は、財賀寺（愛知県豊川市）で寒中の断食行をすることになりました。

財賀寺は、同室の西本昭道師の住坊でもあり、甲子年生まれの私の一番の守り本尊である「千手觀音様」が本尊であるご縁で、千手觀音様のお堂にお籠り修行させて頂くことになりました。

断食はすでに何回も経験していましたので、何の不安もありませんでした。断食の前に虫下しと下剤を飲み（回虫の害や宿便の害を除去し、胃腸の大掃除をする）、一日三回清水をコップ一杯飲む方法で実行しました。そして、日に三度の行法の中に、觀音經三十三巻、ご本尊のご真言一万遍、それに私に特にご縁の深い不動尊と秋葉権現様、お大師さま各三百遍を念じることにしました。法兄である西本昭道師も私と同事の行を修してくれました。

そうして三週間の修業は無魔結願しましたが、み仏に通じたのか、通じなかっかのか、天に向かって矢を放ったごとく手応えはありません。しかし、予定の修行が終わつたので、財賀寺に御礼をのべて生家の帰途に着きました。

大見諦禪僧正（安城市勝福寺）の教え

桑名の山中教聖師と戦争のためにお別れしてより、この大見諦禪僧正にお会いして教えを受けていました。この方は、寒中一ヶ月間、穀・水を断つた断食行を、すでに十六年間連続に修行せられた世にまれな大徳がありました。

本堂にのぼらせて頂き、あいさつをすませたあと、僧正様は私に向かってこう言われました。

「修行は成就しましたか。学院を卒業したら、すぐ独立して人を助けたらよろしいよ。あなたはもう数え二十五歳です。私は二十四歳で独立してこの寺で拝んでいます。」

私は思いもよらぬ話にびっくりし、

「お言葉ですが、私には自信もなく、寺もなく、金もないのにとても独立は出来ません。」

「どうより他ありませんでした。」

僧正は「一寸八分の大師像一体あればそれでよいのです。手を合わしなさい。しばらく
念じなさい。」

お言葉の通り合掌したが、何も感ずるものはありません。大見僧正は言葉を続けて、
「徳は天にありということがわからないのですか。もう一度手を合わせなさい。」

また手を合わせたが、何も感ずるものもなく、

「天の徳もわかりません。」と言ってしまった。とその時「ピシャリ」僧正の手のひらが
私の顔にとんできました。

「だめだ。桜の花の咲く頃まで修行してきなさい。奥伝を授ける。『行者、仏に向かう時、
仏、行者に向かわず。行者、衆生に向かう時、仏、行者に向かう』わかつたか。今日はこ
れで終わり。」と言って、奥の方に行ってしまった。鈍感な私は、これほど一生懸
命に教えて下さるその教える真の意味が理解出来ず、暗い気持ちですごすごと勝福寺を出
ました。

興奮したためか、頭痛が激しくなり、泣きたいような気持ちで電車に乗り、名古屋駅か

ら犬山線に乗り換えて生家の岩倉に向かっていました。「西春、西春」と二声、停車駅の案内があり、何気なく窓のガラス越しに駅のホームを眺めると『国宝薬師如来』という文字の刻まれた石が立っていました。その石を見た瞬間、金色の光明が私の体の中に飛び込んで来ました。

「あっ」と私は思わず合掌しました。

「人のために真剣に祈るところ、必ずみ仏の加持力が頂ける」私をおおっていた曇りが一度に消えて、明るい心が開けてきました。大見僧正の「行者、衆生に向かう時、仏、行者に向かう」という教える真義がやっと理解出来たように思いました。「ようし、命がけで人のためにお祈りさせて頂こう。伝授を受けた秘法をもって。」と心に誓いました。感激の涙がほおを伝たつたのでした。

ああ有難や南無薬師如来尊

南無大師遍照金剛

岐阜市中加賀町賀曾野谷字久保田の久保田家にて
「ああ有難や南無薬師如来尊」

豊川市の財賀寺觀音様本堂で、寒中断食修行を終えて故郷の父母のもとに帰り挨拶をす
ましますと、母がそなたの帰りを待っている人がありますといつて、一枚の名刺を出し、
すぐこの家に行き、願いを聞いてあげなさいと。

そこは岐阜県可児郡（現在の可児市）の某氏、私は一度も会った事のない人です。翌日、
名刺を頼りに道を訪ね乍ら、たどり着くと、三十五、六歳と思われる小柄な主人が出迎え、
すぐに仏壇の祀つてある奥座敷へ通されました。

初めての説法

一通りの挨拶が済みますと、この家の主人の質問が始まりました。

「医師の治療を受けると、すぐ治る病気と、なかなか効果の現れぬ病気があるようだ
ますが効果の顯れぬ場合は、どうしたらよくなりますか教えて下さい。」私は未熟ながら

これにこたえなければなりません。治りにくいのは、其の治療の方法が病氣に適していないのではないかと考へます。宗祖弘法大師は、病氣を大きく分けて、身体の病氣と心の病氣と二つあります。

身体の病氣は、食物のとり方、労働の仕方、休息の仕方に、寒・熱と住居の問題で、顯れる事が多く、心の病氣は、自分で自分を苦しめる暗い心や、人とのふれあいにより、心を苦しめて出る病氣、魍魎鬼神、地神・金神の祟りや、惡靈、怨靈、不成仏靈等のさわりによる奇病があります。

身体の病氣は医師に養生法を教えてもらい、病氣に適する良薬を与えられれば、全快しますが、心の病氣や鬼神、惡靈、怨靈、不成仏靈のさわりより出ている病氣は、心の持ち方の指導と、真言陀羅尼を誦誦し、真言秘密の加持力によって、病氣、災難を救う事が出来ると教えられていますと説明しました。

ご主人は、私の妹は足が悪く、永く医療を続けていますが、よくなりません。何かの祟りでしょうか？ どうか助けて下さいと、本心をうち明けられた。そのとき私は人の病氣

を助ける自信がありません。

真言宗の加持祈祷は、三力具足と言つて、三つの力が一致して靈験が顯れ、願いが成就すると教えられています。その三つの力とは、

第一に「以我功德力」と言つて、仏の教えにしたがい、惡事をやめて善い事を行い、一心に仏におすがりして、功徳を積むことです。

第二に「如來加持力」と言つて、仏様が私達を哀れみ、助けてやろうとご守護下さる力がこれです。

第三に「及以法界力」と言つて、拝む場所や、色々のご供物や、行者の一心の祈りなどが、これに当たります。

この三つの力が一致した時、過去の罪障が消えて医学で治りにくい病気が良くなる事があります。

神仏のご加護を受けたいと思われるなら、心清らかにして、疑いの心を持たず、一生懸命に、神仏を拝み、功徳を積むことです。これが出来れば、加持祈祷させて頂きます。私

とあなた方との一心が神仏に通じましたら、如来様のご加護が頂けます、と申しました。すると「ふすま」の戸が開き、奥の間より一人の妹さんが出てこられました。「私は足の関節が曲がらず困っています助けて下さい」と足を横に出して丁寧に挨拶をしました。

初めてのお加持

私の座席より約二メートル離れた所に「正しく立ち、両手を合せ、目を軽く閉じて、心より南無大師遍照金剛と、唱え続けて下さい。私がよろしいと言う迄、南無大師遍照金剛のご宝号を一心不乱で念じ続けて下さいよ」と注意して、護身法を結びました。安城市勝福寺住職、大見諦禪老師の奥伝の言葉が、私の頭によみがえってきました。

「行者、仏に向う時、仏、行者に向わず

行者、衆生に向う時、仏、行者に向う」と

そして、専修学院で森田龍巒大僧正様より伝授を受けて加行を続けた十八道の次第通りに印契を結びご真言をとなえて、仏をお迎えしました。そうして、み仏の大慈悲のご誓願が、まことならば、この娘の過去の罪障を速やかに除去して本来の仏性を目の前に顯して下さい。罪障消滅の為に不動明王の火界呪と慈救呪を一心にとなえて後、薬師如来のご真言を、となえて、この病氣を平癒せしめ給えと祈念して、千手觀音のご真言と大師のご宝号、護法善神を念じて、解法（法をとき仏を元に帰つて頂くこと）して「そのままお座り下さい」と立つてている娘さんに言いました。永年正座出来なかつた足の関節が難なく、すうと座れました。

次に妹さんも、前と同じように、加持祈祷致しましたところ、姉さん同様に目前でよくなりました。

ご主人は私の子供も足が悪いので、お願ひしますと言つて四、五歳位の幼女を連れて來ました。前と同じように加持致しました。この子は前進するとき右足がまっすぐ出ず、横に廻して出していましたが、これも一回のお加持で正常にもどりました。これを見たご主

人は、ワアッと声をあげて泣き、私に向かって畳に頭をすり付けて「有り難うございます」と喜びの挨拶をされたのです。真言密教の伝燈の法を初めて、人の為に修行させて頂き、目の前で靈験を見せて頂き私自身が夢心地であります。

ご主人に向かい「御礼は御仏様、お大師様に申して下さい。私も共に御礼を申し上げましょう。」と心の底より般若心経を奉読して感謝したのです。

その時、大見諦禪老師の「徳は天にあり」と教えて下さいました真意が漸く理解出来たのであります。菩提心と、伝授を受けた真言秘密の法さえあれば、いつでも、どこでも人の苦をぬき、幸せを与える事が出来ることを。

拝む者も、拝んでもらった人も感激の涙を流したのであります。この家で一泊の宿を頂き、夜の一二時迄も、真言の教えを話したのでした。翌日、分家の従姉弟の君子さんがお産後危篤の状態であるから至急帰るよう連絡がありその枕辺に座ったのは午後六時頃でした。目を開いて電池で目の玉を見ると、もう瞳孔が開いたままで。これは大変と思ひ念じますと、お産の胎盤が大金神の廻った方位に埋めてある事がわかり、早速掘り出すよう

に伝えて、その場所を清めてお詫びの法を修しました。

今晩中に急変があれば呼びに来るよう言つて午後九時頃帰宅しました。朝迄何の連絡も無いので、七時頃急いで行つて見ると、半死の状態である従姉弟が敷布団の上に座つているのです。「君子さん」とこえをかけるとニッコリ笑い

「お世話になりました、有難うございました」と御礼を言われ、驚いたのは私でありますた。

名古屋市内の巡回

名古屋市内より野菜を買い出しに、いつも来ていた某奥さんは、母より靈験談を聞き、大空襲の焼跡には、貧しさと病気で苦しんでいる人が多くあります。私がご案内しますから、助けられるものなら、助けてあげて下さいと頼み込まれて、高野山専修学院、三学期

に登る迄に少し日時があるから、廻らせて頂きますと数人の家に行き、法を説き、心の持ち方を指導して、如法にお加持をしたのでした。内科的な重い病気の人はすぐよくなりませんが、祟りや靈障の人は皆目を見張る程快方に向かい、加持力に、自信が出来て、高野山に登ることが出来ました。



薬師如来像